

学校経営ビジョン	重点目標	観点	具体的手立て及び評価の視点	学校評価		関係者評価	○成果 ●課題 ★対策
				職員	保護者		
「やる気」 基礎学力の確実な定着と学力向上	1 学習指導の工夫・改善	1 授業改善	着実に学力が身に付くよう、授業研究会や研修の成果を生かし、授業の工夫・改善に努めている。	3.3	3.9	3.7	○ 個に応じた手立てを全職員で共有し、少人数の特性を生かしたきめ細かな学習指導の在り方について、全職員で研究を進めることができた。 ● 長期欠席等での学習の遅れに対して、補充する手立てが十分とは言えない。 ★ 補充の機会をより多く設定するなど、それぞれの学習状況に応じた指導法等の工夫改善を行っていく。
		2 諸テスト結果の分析と活用	定期テストや対外テスト等の結果をもとに、一人一人の学習状況を把握し、授業に活用している。				
	2 少人数指導の充実と家庭学習の習慣化	3 乗り入れ授業	小中の乗り入れ授業により複式解消を図るとともに、小中で連携し、系統的な指導を行っている。				
		4 家庭学習の充実	家庭と連携し、児童生徒の学力向上につながる家庭学習の推進に努めている。	3.2	3.7	3.7	○ 乗り入れ授業を通して、小中の教職員が連携し、複式授業を減らすことにより、少人数指導の推進を図ることができた。 ○ 放課後に教室を開放し、復習等ができる時間を確保することで、自ら学ぶ習慣化を図ることができた。 ● 授業とのつながりや効果が実感できるような課題を精選することができていない。 ★ 授業とのつながりや、個の実態に応じて課題を考慮し、学力向上につながるような課題を設定するようにする。
		5 宿題の工夫	授業と効果的に連動させた家庭学習を課し、教師がその学習状況や成果を見届けている。				
	3 学習環境の充実と読書活動の推進	6 学習形態の工夫	目的に応じた学習形態や学習活動を工夫して、児童生徒の学びが深まるようにしている。				
		7 ICTの活用	ICTを活用して、児童生徒の意欲を高めたり、理解や思考を深めたりしている。	3.3	3.9	3.7	○ 机間指導を充実させ、児童生徒一人一人の学習状況を把握し、必要な手立てを講ずることができた。 ○ デジタル教科書や、プレゼンテーションソフトを利用して学習の意欲を高めることができた。 ● 個別学習・ICTの活用は図られているが、より有効な使い方について、教師がもう一歩踏み込むとよい。 ★ より効果的にICTを活用した授業の構築を図るとともに、児童生徒用タブレットの家庭への持ち帰りを試行し、その効果を検証する必要がある。 ★ 個の「やる気スイッチ」を見つけ、実親・里親に積極的に伝えていくと、家庭学習にも効果が期待できる。
		8 特別支援教育の充実	一人一人の力を伸ばすために、少人数の特性を生かした指導を行っている。				
「本気」 基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	4 基本的な生活習慣の確立	9 あたりまえのこと3か条の徹底	「早寝・早起き・朝ご飯」など、生活規律の必要性を理解させ、規則正しい生活を実践させている。	3.1	4.0	3.7	○ ほとんどの児童生徒が、遅刻・欠席がなく、元気に登校することができた。 ○ 起床から就寝までの生活リズムについて里親間で連携し、山村留學生に対して基本的な生活習慣を身に付けさせている。 ● 夜更かしにより、朝起きることができない生徒がいた。 ● 児童生徒の挨拶の声が小さく、改善に向けての指導の工夫が不足していた。 ★ 保護者と連携し、里親生活のルールを確認しながら、安定した生活リズムづくりに努める。
		10 キャリア教育の充実	個々のキャリア発達のために必要な意欲や態度・能力を育てている。				
		11 道徳教育の充実	児童生徒の道徳性を育む教育を、道徳の時間を中核としながら全教育活動を通して取り組んでいる。	3.1	4.0	4.0	○ いじめ等 인권にかかわる大きな問題は発生せず、協力的な態度で学校生活を送ることができた。 ○ 西都市中学校生徒フォーラムに参加した生徒が、意見を積極的に述べることができた。 ● 場の雰囲気や気持がよくなかったり、相手の気持ちを推し量れなかったりしたまま発言することがあった。 ★ キーワードやスローモーション等の制作を通して、これまでの自己を振り返り、自分に合った目標や行動計画を決めさせる。
	5 将来について考え、温かい人間関係を築く	12 人権意識の高揚	発達段階に応じて人権の大切さを理解させ、互いの人権を尊重する社会を築けるよう指導している。				
		13 さいと学の充実	西都市の教育資源を活用し、市の未来や自分の生き方について考える機会を設定している。				
		14 各種行事の充実	自然体験やボランティア活動を通して、学校行事とのつながりをたもたせ、効果を待たせようとしている。	3.3	4.0	4.0	○ 総合的な学習の時間を計画的に実践し、伝統継承や自然体験活動に積極的に取り組むことができた。 ○ 運動会や文化祭等において、地域の伝統文化を積極的に取り入れることで、内容の充実を図ることができた。 ● 体験活動の趣旨を正確に理解せず、取組が受け身的な児童生徒がいた。 ★ 先賢を敬う心や仕事をすすめるマナーは、地域全体に浸透している。これからは、新しいものに目を向け地域活性化につなげる。 ★ 体験に臨む前に、その活動の意義を十分に捉えさせて取り組ませるようにする。
	6 体験的学習と奉仕的活動の推進	15 地域行事への積極的参加・協力	伝統継承・自然体験活動など地域との交流を通して、児童生徒の豊かな心を育てている。				
		16 生活記録や連絡帳の活用	児童生徒の日常生活を把握してコミュニケーションを図るとともに、表現力を身に付けさせている。				
		17 健康観察の充実	日常的に児童生徒の健康状態を観察し、心身の健康状態を把握し、適切な対応を行っている。	3.4	3.9	3.3	○ 検温・マスク着用・手指の消毒など、感染症予防対策は概ね実践することができた。 ○ 地域農産物のよさを伝える地域人材を招いた授業等により、食への関心や感謝の念を高めることができた。 ● 腹痛や頭痛など慢性的な体調不良を訴える児童生徒がいた。 ★ 朝の検温や健康観察を徹底し、体調不良を訴える児童生徒については、家庭との連絡を密にする。 ★ 学校での指導や、保護者との連携により、生活リズムの確立を図る。
	7 生活のリズムの確立	18 食育の充実	食べ物に対する感謝の心を健康に留意して食べることの大切さを学ばせている。				
		19 給食指導の充実	望ましい食習慣を身に付けさせ、明るい社交性を養い、心身の健全な育成に努めている。				
		20 部活動の充実	生徒の自主的、自発的な参加を促し、教育課程との関連を図り、効率的・効果的に取り組んでいる。	3.2	3.8	3.7	○ 学校栄養士による授業や家庭科、給食指導を通して、栄養バランスを意識させることができた。 ○ 部活動に取り組む姿勢を重視したことや、地域指導者の協力もあり、2年連続で県大会出場を果たすことができた。 ● 教育相談で把握した悩みや困り感が完全に解消できない場合もあった。 ★ 困り感等に対して、解決につながるより一歩踏み込んだ指導や助言、保護者との連携が必要である。 ★ 部活動の外部指導者を積極的に活用し、競技力向上や、心身の健全育成に努める。
	8 食に関する指導の充実と心身の健康維持	21 教育相談の充実	人間関係や、学習・生活・進路等に関する相談を通して、悩みや困り感を解決を図っている。				
		22 避難訓練の実施	火災・台風・地震を想定し、児童生徒が安全に避難できるようにするための訓練を実施している。				
		23 学校環境の整備	学習・生活環境を整備し、児童生徒が安全で落ち着いた雰囲気の中で過ごせるようにしている。	3.3	3.9	4.0	○ 防災訓練を定期的に行うことで、教職員と児童生徒の危機管理意識が高めることができた。 ○ 学校施設の老朽箇所の補強や、PTAの協力による校舎敷地内の草刈りなど、環境保全を行うことができた。 ● ドクターヘリの出動に備えて、運動場の整備や、休業日の対応を考える必要がある。 ★ 地震や風水害を想定して、地区や世帯ごとの最善の避難方法を整理する。 ★ 防災計画を周知した上で、市や地域の消防団等と連携し、危機管理の向上に努める。
24 防災教育の充実		防災意識を向上させ、様々な危険から児童生徒が安全を確保して行動できるように指導している。					
9 安全教育の充実	25 教育課程の工夫	施設一体型の特色を生かし、学習指導や生徒指導に小中学校が連携し、教育活動を充実させている。	3.4	3.9	4.0	○ 地域と連携した運動会や文化祭、小中合同の行事、相互乗り入れ授業など、特色ある学校づくりに努めた。 ● 学校行事に関する指導に追われ、学習指導とのバランスが保てない時期があった。 ★ 各行事に関連性をもたせるなど、児童生徒の負担にならないように、学習とのバランスをとることのできるような、ゆとりある教育課程を編成を目指す。	
	26 校内研修の充実	小中の共通理解、共同実践が推進され、相互の連携や協力体制の確立が図られている。					
	27 学年・学校便りの発行	教育方針や課題、教育活動の情報を公開し、地域・保護者との連携のために役立っている。					
10 教師の指導力向上	28 HP更新	保護者・地域と連携を図るために、日々の児童生徒の様子などを効果的に発信している。	3.6	3.5	3.7	○ 学校HPを更新したり、学校便りを毎月発行することで、学校の様子を広く発信することができた。 ● 学校HPは、1日おきの更新により、情報量としては昨年度より少なくなっている。 ★ 山がっこ銀上や東米良創生会の行事との連携を深めていく必要がある。 ★ 学校HPや学校便りの中身をさらに充実させ、学校の様子を積極的に伝えていく。 ★ 地域・PTA行事に際して、保護者や東米良創生会との連携を図り、地域の教育力を生かす学校運営に努める。	
	29 スクールコミュニティの充実	学校と地域・保護者が連携して学校の運営に取り組む、地域とともにある学校の実現に努めている。					
	30 各種行事への協力	自然体験や伝統文化体験などの行事において、地域の教育力を生かした教育活動が推進されている。					
11 学校教育活動の情報発信	31 留学生受け入れに係る連携推進	学校・山村留學実行委員会・里親・実親との連携が図られ、留学生受け入れが円滑に行われている。	3.4	4.0	4.0	○ 山村留學の広報活動、一日体験入学、面接など一連の活動を円滑に行うことができた。 ● タブレット持ち帰りに伴うルールや、小遣い等を含む金銭管理について、保護者間で共通理解を図る必要がある。 ★ 里親及び実親と連携を図り、ルールづくりや、児童生徒の実態に沿った指導を行う。	
	32 家庭や地域との連携による学校支援の充実	学校と地域と学校が目標を共有し、双方向で連携・協働し活動している。					
12 山村留學実行委員会との連携・協力	33 児童生徒の健全育成・家庭教育の充実	児童生徒の健全な育成に育成のために学校と里親・実親とが連携し家庭教育の充実を図っている。	3.2	4.0	3.7	○ 地域伝承芸能の練習や農業体験学習などの一部を課外活動にすることで、講師の指導時間を工夫することができた。 ● 山がっこ銀上や創生会の活動に対して、児童生徒の参加が少ないことがあった。 ★ 学校と地域及び保護者との連携をさらに深め、児童生徒の情報モラルや危機管理能力を育成する。 ★ 創生会のフリーペーパー等を活用して、学校と地域で情報の共有を図り、東米良地区のよさをアピールする。	
	13 地域学校協働活動の推進						
「開かれた学校」 小中一貫教育の推進と家庭・地域との連携	10 教師の指導力向上	34 各種行事への協力	自然体験や伝統文化体験などの行事において、地域の教育力を生かした教育活動が推進されている。				
		35 学年・学校便りの発行	教育方針や課題、教育活動の情報を公開し、地域・保護者との連携のために役立っている。				
	11 学校教育活動の情報発信	36 HP更新	保護者・地域と連携を図るために、日々の児童生徒の様子などを効果的に発信している。	3.6	3.5	3.7	○ 学校HPを更新したり、学校便りを毎月発行することで、学校の様子を広く発信することができた。 ● 学校HPは、1日おきの更新により、情報量としては昨年度より少なくなっている。 ★ 山がっこ銀上や東米良創生会の行事との連携を深めていく必要がある。 ★ 学校HPや学校便りの中身をさらに充実させ、学校の様子を積極的に伝えていく。 ★ 地域・PTA行事に際して、保護者や東米良創生会との連携を図り、地域の教育力を生かす学校運営に努める。
12 山村留學実行委員会との連携・協力	37 スクールコミュニティの充実	学校と地域・保護者が連携して学校の運営に取り組む、地域とともにある学校の実現に努めている。					
	38 各種行事への協力	自然体験や伝統文化体験などの行事において、地域の教育力を生かした教育活動が推進されている。					
13 地域学校協働活動の推進	39 留学生受け入れに係る連携推進	学校・山村留學実行委員会・里親・実親との連携が図られ、留学生受け入れが円滑に行われている。	3.4	4.0	4.0	○ 山村留學の広報活動、一日体験入学、面接など一連の活動を円滑に行うことができた。 ● タブレット持ち帰りに伴うルールや、小遣い等を含む金銭管理について、保護者間で共通理解を図る必要がある。 ★ 里親及び実親と連携を図り、ルールづくりや、児童生徒の実態に沿った指導を行う。	
	40 家庭や地域との連携による学校支援の充実	学校と地域と学校が目標を共有し、双方向で連携・協働し活動している。					